

今月の法話

一、「心と魂の修行」

二、「執金剛神の利益と功德」 執金剛神講式から見る執金剛神信仰

一、「心と魂の修行」

皆さんは心と魂は同じだと思えますか？この二つは全く別物です。心は頭で考えたり思ったり、敬意や優しさや、思いやりなど、学びながら磨かれていくものです。では魂とは何か？生命のエネルギー。何度も何度も生まれ変わりがながらも不滅なもの。唯一宇宙につながるもの。先祖からの受け継がれたもの。どこの世界にも繋がる道そのもの。私達が一番大切にしている素晴らしい光の宝です。この魂の光が強ければ周囲の魂の光も影響されより輝きます。心も魂も、ともに目に見えることはありませんが、時として魂はその姿を見せることがあります。心と魂の存在を証明するのは難しいですが、仏教はそれらを磨く方法を示し、宇宙に繋がる道を示します。六波羅蜜や八正道はその最たるものでしょう。仏教は難しい学問的と思わず、そのときに導いてくださる手引きなのだと思います。インド・中国から日本へと伝わってくる中で長い年月をかけてその学問は複雑なものになり、極めて難解なものとなつていきます。しかし、それでもこの地、この時代まで伝わってきたことは本当に有難いことなのです。

心を磨くと魂も磨かれてゆきます。私達が幸せいっばいになることが魂を光らせる道なのですが、これは自身のみ、身内だけ、でなく社会全体であり、人類全体を幸せにしなければなりません。ゆえに終わりがありません。しかし、昔より現代の方が命の尊厳を守るように社会は変化してきています。

どのようにすれば魂が磨かれ、輝きを放つようになるのか？まずは心と魂の存在を信じること。そして、それらは全て宇宙と繋がっていると言うことを感じてください。たとえそれらを証明できなくてもです。そして、常に幸せになる姿を心に想い描いて、笑顔をもって言葉は丁寧に使ってください。言葉は言霊です。宇宙も聞いています。私が今言う宇宙は神仏そのものことです。そしてこの多種多様な宇宙の中で、観音様の示す世界こそが私達の導かれた道なのです。私たちは魂を磨く為この世に生まれ修行しているのです。これが使命と言っても過言ではありません。

この世は泥沼のように汚れています。その中にはたくさんさんの養分があり水もあります。もちろん中には悪性のももあります。それらさえも養分として素晴らしい蓮華の華を咲かせるのが、私達です。菩薩様は蓮華座に座っておられるのは、皆もこの座に座ることができるのだと仏が示しているのです。

魂を磨くのは、限りなく時間がかかります。でも安心して下さい、魂は不滅です。私たちは生まれ変わり死にまた生まれ変わりと永遠に繰り返すのですが、終わりのなきものはありません。今は修行中です。ともに夢を持ち励みましょう。

二、「執金剛神の利益と功德」 執金剛神講式から見る執金剛神信仰

執金剛神は東大寺三月堂の北方、本尊不空羅索観音と背中合わせの形で安置されています。国内では執金剛神の作例は極めて少なく、本像の他には高野山に快慶作のもの、三十三間堂の本尊千手観音の光背に配されているように、三十三応現身の一体として描かれたり、作られることがある程度のもです。今回は、九月の観音祭でも講じた執金剛神講式の次第をベースに、執金剛神のご利益とその役割について深掘りしていこうと思います。

日本における執金剛神の信仰は、不空羅索と同じく奈良時代に特徴的に現れるもので、平安以降では見ることができません。一説に依れば、吉野の金峯山寺の本尊である蔵王権現。こちらは役行者が勧請したことで知られていますが、その立ち姿は執金剛神を元にしてるとされます。実際に快慶の作は、右足を上げた蔵王権現が如き姿をされています。

そもそも、東大寺に執金剛神が祭られているのは、東大寺の初代別当・良弁僧正の念持仏であったためです。三月堂は正式には羅索堂と呼ばれ、本尊が不空羅索観音であることがわかりますが、その前身である金鐘寺にて日本霊異記によれば良弁の手によって執金剛神が祭られていたことがわかります。さらに最近の調査によって、本尊不空羅索観音が安置されるより前には、同じ場所に執金剛神が祭られていた可能性にも言及されています。

執金剛神は仏法を、そして仏道修行者を守護する鬼神とされ、その姿は『増一阿含経』巻二十二に登場します。ここでは「仏の顔も三度まで」の由来になる仏に三度以上偽りを言おうとした者に執金剛神がその金剛杵を振り下ろそうとする場面が描かれています。執金剛神はインドにおいても古くから存在が確認されます。仏法に逆らうものを懲らしめてくれる強い鬼神であることから、山岳修行を始めとして厳しく、死とも隣り合わせの修行を行う僧侶にとって心の拠り所となっていたのでしょう。

不空羅索観音が羅索堂の本尊となつてからはその北方に安置され、そして時折、調伏の祈りが行われていたよう

です。特に平将門の乱が有名で、尊像の一部が蜂となって誅伐したとされます。その後も度々朝廷を護るための祈りが行われたとされ、蒙古襲来の「弘安の役」、鎌倉幕府を打ち倒した「元弘建武の乱」では朝敵を伏して信仰を集めました。また、「治承の乱」通称南都焼討では三月堂のみがその火難を逃れ、その後大仏再建を見守られたとされます。

なぜ、こうまで執金剛神は仏道の守護に励まれるのでしょうか。大乘經典の一つである『悲華經』をまとめたお釈迦様の五百大願が記されている『釈迦如来五百大願經』。その第四十二願、執金剛神身願において「我未来に菩薩の道を行じる時、もし衆生あつて執金剛神に事え、また願わくば化して執金剛神の身と為つて、而して之を教化して善法に住まわしむ。もし、しからずんば正覚を成らず」と、お釈迦様は執金剛神の身と為つてまで私達衆生が誤つた道にゆかないようにと願われているのです。この執金剛神の姿と為つてという部分は、観音經の三十三応現身の「應以執金剛神得度者、即現執金剛神」と同じですね。こちらでは観音様が執金剛神の姿に変じられています。また、『華嚴經』でも執金剛は極めて重要視されています。華嚴經はこの宇宙を表現した広大無辺な經典であるから火神や風神などの自然神を始めとして龍神、薬神など多くの神々が登場します。その数十九部類百九十体。その中でも執金剛神は最も始めに登場する神であり、真つ先に道場に駆けつけ守護を任されている神なのです。この執金剛神について、華嚴宗第三祖である法蔵は常に仏と共にあることから「これは仏の教えの金剛堅固であることを示す」と。また、第四祖澄観は金剛神について『華嚴經疏』巻第五に「般若の堅固さと鋭さで衆生を導き彼岸に至らせる徳を持つ神」であるとしています。

常に守護者として傍に控えている執金剛神ですが『大般若經』では珍しく偈文を説くことがあります。「法本無名字 佛以名字説 大悲眞教法 我今頂戴持」（教えには本来名前はない。しかし仏はその姿を持って法を説かれている。その大いなる衆生への哀れみ救う眞の教えを私は今頂戴する）。まさに、釈迦の教えをその傍らで聞き続けた執金剛神ならではの教えでしょう。また、涅槃經においては、執金剛神はお釈迦様が入滅された時には、常に持っている鉢を投げ捨てて涙を流し、嘆き悲しまれました。鬼の目にも涙とは、まさにこのことですね。

講式次第の最後には「この尊に会つて、お祭りすることができることを喜ばないでいられようか」と締めくくられます。今この道場で執金剛神とのご縁をいただき拝むことができるというのは全くもって得難く、変えることのできない素晴らしいご縁にほかなりません。このお堂に來られた際には必ずお参りして、その守護に感謝してくださいませ。

諸仏の眞言 ② く十一面観音く

言わずと知れた東大寺二月堂のご本尊。しかし、こちらも千手観音と同じくインドでの作例がほとんど無い。日本では奈良時代、平安時代に作られるがそれ以降は下火に。聖林寺や長谷寺などが有名。

十一面は当前の三面は慈悲相、左の三面は瞋怒相、右の三面は白牙相、後ろの一面は暴悪大笑。最後に如来の一面が頂上に。本面と合わせて十二面あるのはなぜだろう？

この尊像は軍持を持つことにも特徴される。これは瓶と違つて水を注ぐ口がある。大悲の智水をもつて煩惱の炎を鎮火する力をあらわす。故に熱病対治には十一面観音を祈る。

眞言 オン マカキヤロニキヤ ソワカ
オン ロケイ ジンバラ キリク

合掌

南無日光妙法蓮華經

※九月十七日に行われた不空羅索観音大祭において、皆様からの供花のご寄進のおかげでたくさんのお花で荘厳し、観音様をお迎えすることができました。心より御礼申し上げます。

*十月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（十月八日く十一月七日） ※一年通してのラッキーカーラーは桜色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

十月のラッキーカーラー 白 金 赤 暗剣殺 北 五黄殺 南

【お知らせ】

- ① 十一月の勉強会の日程：普賢光明寺（鎌倉） 十一月四日（土）五日（日）七日（火）午後一時より
横須賀支部 鎌倉にて合同となります 小田原支部 十一月十九日（日）第三日曜に変更 午後二時より
（十一月二十六日）横浜能楽堂 修二会声明の公演に任職が仕任の為、変更をお願いしております。ご了承くださいませ。）
- ② 滝行予定：●十月八日（日） 塩川滝 午前七時集合 ●十月二十二日（日） 夕日の滝 午前六時集合
●十一月十二日（日） 塩川滝 午前七時集合 ●十一月十九日（日） 夕日の滝 午前七時集合
※女性性は十月二十二日、男性性は十一月二十七日で今期の滝行は原則終了となります。（十月からは年齢制限がございます）
- ③ 大山参拝登山：十一月三日（金・祝）詳細は別紙にてご確認ください。
- ⑤ 本年の煤払いは十二月三日（日）勉強会の午前中を予定しております。お忙しいと存じますが、観音様の住まわれる本堂を清浄とし、ご一緒に心の煤も払ってください。午前八時三十分より。昼食のお弁当をご用意いたします
- ⑥ 東大寺参拝 執金剛神御開帳と不動護摩・十二月十六日（土） 詳細は来月にお知らせいたします。
- ⑦ 愛染明王護摩供を十一月十二日（日）午前十一時より厳修いたします。詳しくは別紙をお読みください。
- ⑧ 令和六年 個人別年間霊視の受付は十一月より行います。